Yoshinogawa medical center

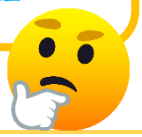
board of education 通信

clinical nurse/Vol.9

キャリアサポート室発行

それって誰のための ACP？

～医師 A と医師 B の会話～



今年度は「医療・看護にまつわる雑学」についてご紹介していきたいと思います。

【通信の目的】忙しい業務の中でも、患者・家族の生きてきた物語を思い描ける温かい看護が提供できる看護師が必要とされています。医療・看護に携わる仲間が知識や情報、考え方を共有できることを目指して発刊いたします。

【症例】

９０歳男性。老人ホームに入居中。誤嚥性肺炎で入退院を頻繁に繰り返している。今回も肺炎で入院となったが、今回はこのままなくなりそうです。家族に終末期医療について希望を聴取すると「できることを全てやってください」と言われました。ACP が進まない症例？

こういう症例、時々ありますね。いつもモヤモヤします。

ACP（Advance Care Planning）は、「将来の意思決定能力低下に備えて、治療方針・療養についての気掛かりや自分が大切にしてきた価値観を、患者・家族と医療者が共有し、ケアを計画する包括的なプロセスのこと」とされている。一方で「最期のタイミングで心臓マッサージや人工呼吸器を使うかどうかを決めること」のような事前指示は AD（Advance Directive）と呼ばれ ACP とは区別されている

なんだか違いがイマイチわからないです・・・

歴史を紐解くとわかりやすいかも・・。事前指示を作成することを目的とした AD は、米国で 1980 年代に法律で制定されたけど、単に書類を作成するだけでは、DNAR 取得から死亡までの日数、疼痛管理、AD の遵守、医療コスト、患者・家族満足度などで結果が出なかった。

なるほど。
事前指示を作成するだけではうまくいかなかったんですね。

それで、患者・家族の気掛かりや価値観に視点をおいて、それを共有するプロセスを大事にしましょうという考えに変わってきた。この症例は確かにモヤモヤするかもしれない。「終末期のケアを決めること」を目的にしているので厳密には ACP と呼べないかも・・。それに医療者の価値観を押し付けすぎているような気がする。

う～ん。確かに。この年齢だったら「延命治療をしない」ほうがいいかなって直観的に考えますけど、それって僕たち医療者の価値観ですね

「全てやってほしい」と言われたら「全て」が患者・家族にとってどういう意味を持つか聴取し、患者・家族の感情や価値観と照らし合わせながら、患者・家族にとってのより良いゴールを相談して決めていくのがいいとされている。

医療者が「説明が足りていない」と考えて、説得しようとしている状況をよく見るような気がします。足りないのは「医療者からの説明ではなく、「患者・家族の考えを聴く姿勢」なのかもしれないですね

- **ACP は「ケア内容を決めること」ではない**
- **「全てやって欲しい」と言われたら、まずはその患者・家族の考えを聴取する**

2023 年 6 研修予定　　@５日・１９日　看護を語る会

@　５日　創傷ケアコアナース研修　@６日新人研修「輸血管理」・実地指導者研修　@９日 HD 看護基礎コース

@１３日　DM エキスパートナース研修　@１４日　インスリンエキスパートナース研修　@１５日　看護助手研修

@１９日　静脈注射認定研修「輸血管理」　@　ラダーⅢ研修「静脈血栓症対策」　@２８日　インスリンエキスパートナース研修

リボンの[ホーム]タブ上にある[スタイル]から 1 回のクリックだけで必要な書式を設定できます。